

文芸

短歌

米納三雄 選

朝なさな祈りのなかに昇る日の水田に写り吾に付き来る

広崎 三浦夕工子

梅雨晴れ間さ庭に遊ぶ雀らに餌をまく夫の笑顔にあえり

寺迫 首藤ユキエ

雨雲と入道雲の相寄りて梅雨明け近し蟬の声きく

安永 守住 孝子

少しでも涼しければの打ち水に雀飛び来て水浴びをする

広崎 宮崎 逸雄

闘病のかいなく逝きし友哀れ微笑む遺影に思い出尽きず

惣領 島田 廣子

朝の庭姿見えねど蟬の声競うが如しけやき木の中

広崎 永田 馨

西空の夕靄深み太陽は赤々燃えて山の端に沈む

広崎 山崎 縫子

どくだみが万能薬と教えたる幼きころの母のぬくもり

広崎 一丸 寅三

十六歳の心計れず草引けば育てしバラが仄かに香る

宮園 金子フム子

口ぐせのように歌いし子守唄今は娘が孫にうたえり

馬水 竹永津都子

紫陽花の光る新芽の側に立つオオアラセイトウ薄紫に

小池 坂上 裕子

飼犬が蛇をくわえて殺せしを我頼もしく思い見ており

宮園 坂本 信一

俳句

富永小谷 選

昼の雷力を貯めて近づき来

宮園 丸野 紀子

蚊遣香海風抜くる昼座敷

宮園 久保ます子

田を渡り来て風鈴をふためかす

秋永 福岡ふさえ

噴水の雲に呼ばれて穂を伸ばす

宮園 永田 自然

背く子に絹の団扇の風送る

小谷 富永 きぬ

伏流の恵みひたひた余り苗

惣領 山本みな子

風音の他は聞えず青芒

馬水 松本みどり

恙なく老いて青田を巡りをり

田原 佐藤 澄世

居るだけで良いと言ふ夫心太

上陳 松本 昭子

送電塔植田に影を落したる

上陳 永田己智子

狂句

田上富岳 選

使い捨て 空き缶に見る不道德

広崎 一丸 寅三

使い捨て 使われる身になつてみれ

寺迫 新村 典子

使い捨て 貧しゅうなつた人情味

木山 増岡 酔粋

使い捨て 節約の字は忘れとる

宮園 岩本よしろく

使い捨て 嘗味期限の来た亭主

惣領 阪口 基明

夏休み 孫台風にばてる爺

惣領 小森英美子

夏休み 非常事態の胃虫

田原 野口 鈍輝

夏休み 家事は子供にさせよらす

寺迫 吉村 丸正

夏休み 蝉も暑かてわめきよる

広崎 宮崎 逸雄

夏休み 寝てゝも泳ぐ子の姿

馬水 竹永津都子

狂句次号の課題「隠しても」「あとまどおり」

投稿は役場広報係まで。毎月15日まで必着。
(数種に投稿される場合は、別にしてください。)

和菓子の匠が 華麗な技を披露

7月5日、和菓子職人の片岡圭助さん(熊本市)を招いたPTA主催の「お菓子作り」が飯野小学校で行われ、同小5年生の親子が和菓子作りの手ほどきを受けました。

挑戦したお菓子は「みたらし団子」やミカンなどの形をした「生菓子」など。親子で団子を丸めるなど楽しいひとときを過ごしました。また、指導する片岡さんの手から、本物そっくりのミカンや繊細な形をしたお菓子が次々と繰り出されると、参加者からは、ため息がもれていました。



片岡さんの指導を受ける参加者たち